

第5次ニセコ町総合計画第2次見直し検討委員会（第2回）会議録（概要）

◇日時 令和元年（2019年）11月7日（木）18:00～20:00

◇場所 ニセコ町役場第二会議室

◇参加者 【委員】磯野 浩昭、井上 剛、斉藤 海三郎、竹石 成樹、坪井 訓、
安岡 洋介（敬称略、以下同様）
【事務局】山本 契太（企画環境課長）、柏木 邦子（企画環境課参事）、
齊藤 徹（企画環境課経営企画係長）、梅田 滋（企画環境課集落支援員）、
澤田 円（企画環境課経営企画係主事）

<議事> ○：委員からの発言、●：事務局からの発言、→：委員からの発言に対する事務局回答

1 住民アンケート調査結果の概要について説明（梅田集落支援員）

① サンプルの歪みについて・・住民アンケート調査報告書 P6

●回答者の属性から判断すると、女性の意見が強く反映される形となった。地区別、年齢別の差異はプラスマイナスの表示が逆になっているので訂正する。数値の差異は±5%を誤差の範囲とした。

○差異は%とポイント、どちらを表しているのか。

→ポイントとしている。わかりやすくするためにポイントとした。

○母数が小さいときにポイントを用いると影響度に影響が出るのではないか。

→確かに。わかりやすくするため「ポイント」にしたが、「%」のほうが適切かもしれない。

○本文中にも%とポイントが混在しているため、読んでいて混乱する。統一して標記したほうがいい。%を意味しているのであれば%にしたほうがいい。

→修正する。

② 単純集計とクロス集計、重回帰分析について・・住民アンケート調査報告書 P7 から

●アンケートの設問ごとに割合等を出して表にしている。性別や地区別についてはクロス集計、重要度については重回帰分析を行った。重要度のⅠ～Ⅳの類型は満足度や重要度で4つに区分されることを示している。

○年代別のクロス集計もしてほしい。老人が多いから満足度が高いのではないか、わからないと回答している人が多い年代は関係ない分野だからそのような回答をしている、ということが分かるのではないか。

→年代別クロスが必要と思われる項目のところで算出したい。

○表中で数字の部分で一番多かった回答に網掛けしていると思うが、当てはまらないケースがある。(7)5、(13)6、(15)2、(16)5がそうである。

→単純ミス、修正する。

○何に網掛けをしているのかが分かったほうがいい。

→凡例を示す方向で検討する。

○重要度指標の類型のⅢは「満足度が高く」となっているが、正しくは「満足度が低く」ではないか。

→修正する。

○重要度と影響度は統一したほうがいいのではないか。

→影響度に統一する。

○アンケート調査の(21)で影響度の類型の変化が出ないのはなぜか。

→(21)(22)は全体についての設問なので被説明変数については、影響度は出ない。

○数値に網掛けしているのは後で何かに利用しているのか。個人としてはニセコ町全体の満足度平均値の増減に注目している。そこを目立たせたほうがいいのではないか。

→全体的に増減に注目している。統計の場合、グラフにする場合が多いが今回はグラフにはしない。表中で分かりやすくするために一番選ばれたものに網掛けしている。

○±5%で網掛けするのではなく、ニセコ町全体の満足度の平均値の増減でマイナスのものに網掛けしてはどうか。

→誤差と有意を区別する必要があるので、今回はその境界を±5%とした。このままでいきたい。

○「わからない」という回答について、関心がないのか、情報がなくて判断ができないのか、解説を読んでもどちらか判断がつかない。「わからない」という回答が多いところは改善が必要な項目ではないか。

→「わからない」と回答した理由は様々考えられる。アンケートを取るときに、どういった理由でわからないのか、項目を入れることもできたが、回答が面倒になってしまうことも考えられたため、そこまではしなかった。ただ、どういった理由かはある程度推測できる。重要な部分は追加調査があってもいいと考えている。今後、アンケートを実施する機会があれば、検討する。

③地区ごとの満足度平均について・・・住民アンケート調査報告書 P11 から

●ニセコ町全体の満足度平均と5つの地区でそれぞれ満足度の平均値を算出し、過去のデータと比較した。

○この表の特徴は何か。

→南西地区がほとんどの項目で有意にプラスになったことである。

○もう一つの特徴として、市街地区のマイナスが圧倒的に多いことも挙げられるのではないか。

→±5%以内のところは誤差であることも考えられる。必要であればさらに詳しい分析のできるような検定をする。

→そのような要望が示されなかったので、±5%誤差のままとしたい。

④各項目の結果・論点等について・・・住民アンケート調査報告書 P14 から

●アンケートの回答結果についての表、その割合を示した棒グラフ、影響度示したグラフ、満足度の平均値から特徴ある部分からいくつかの論点をピックアップし、担当課長のコメントを掲載している。重要な論点にはアルファベットを振って、最後にまとめている。

○OP15の3行目、50ポイントというのも、50%か。

→%に統一する。

○前回(2015年)と今回を比較しているが、前々回(2010年)とは比較しないのか。

→この4年に注目している。

- 南西地区に住んでいるが、変化が分からない。
- いい加減な回答が増えたのではないか。
- 前々回と比べて極端に変わっているところは比較してみてもいいのではないか。
→検討する。
- 棒グラフとアンケートの設問が逆になっているが、意図はあるか。
→意図はない。ソフトの機能としてそうなっただけである。
- OP66 のまとめで A のように考えられるのはなぜか。
→福井地区の助け合い交通の取り組みから考えた。
- 福井地区だけでやっているのに、なぜ南西地区の評価が高くなっているのか。
→周りの地区の人が福井地区の助け合い交通の取り組みを知って、期待感などから上がっていると考えた。交通の問題はほかの生活など様々なことに影響している。
- 交通に関してはデマンドバスに対しての設問である。デマンドバスに関しては何も変化はない。
→デマンドバスに対しても期待感から評価が高くなっていることも考えられる。
- デマンドバスの利用については利用予約などのデータを見れば、改善されているかわかるのではないか。
→明らかに前回と違う答えをして、満足している人が有意に増えていることは確かである。前回のアンケートの際に南西地区の満足度が低く、ヒアリングやまちづくり懇談会で出た意見からも交通の面での影響が大きいと考えられた。改善したのではなく、よくなる方向にあると思う人が増えたと思う。
- 前回が低すぎた、ということかもしれないので、前々回と比較したらいいのではないか。
→学校教育等、南西地区で特別なことはしていない。南西地区では助け合い交通以外での特別なことはしていない。前々回、前回との比較について、追加分析したい。
- 10 年前からそれぞれ年齢が上がっている。そのため、年齢別でクロス集計したほうがいいのではないか。
→農業分野に関して、職業別のクロス集計を行ったところ、おもしろい結果が出た。デマンドバスについても年齢別や居住歴別などクロス集計してみる。
- アンケートの設問にある、地域住民の学習活動のリーダーとは何か。
→文化活動全般に対するもので、「・・・会」などのようなものである。
- 「・・・会」は学習活動か。
→学習活動も含まれるのではないか。
- アンケートの設問では「学習活動のリーダー」、本文中では「住民リーダー」「地域リーダー」などと様々なリーダーが存在している。回答者それぞれでリーダーを作っているのではないか。
→様々混じっていると思う。
- OP18 の課長コメントにある地域リーダーは学習機会のリーダーのことなのか。コメントの意味が分からない。
→そういう意味とは思うが、厳密には分からない。

⑤全体におけるⅣの算出と重点施策について・・住民アンケート調査報告書 P69 から

- すべての設問項目を統一した基準によって比較した。その結果、影響度がⅣになったものを重点課題項目とした。
- Ⅳにならなかった項目でも、重要なものはある。どうしてⅣなのか、評価が上がらないのか。そういった部分を詰めていくことが重要ではないか。
- Ⅳに注目した資料を作成した。
- 重点課題となるものが多すぎる。検討委員会も残り 2 回なので有意義なものとなるよう、今後の方向性を決めたい。
- 統一の基準で数字を出したが、無理のある重回帰分析をしているので、ひずみが生まれる。数字はあくまで参考値である。
- ずっとⅣであるものは分かりやすい。それらをどう扱うかが話の方向性となる。新幹線についてもずっとⅣであるが、何をしているかわからないからなのかもしれない。
- 新幹線は 4 年前にはトンネル工事をしていなかった。4 年前は何をするかわからないからⅣ、今回は、トンネルを掘り始めて、どうなるかわからないことへの不安からのⅣということも考えられる。
- 総合計画の戦略プランの中では「重点課題項目」という表記は今までしていない。目指そう値を高く設定するのか、強調して標記するのか、重点として取り組むことを計画の中にどう落とし込むかを考えなければならない。
- 重点項目となった場合には、予算も重視されるのか。
- 取り組んでいかなければならないものとして取り上げられる。
- 話し合わなければならないことは何なのか。具体的なことを話して施策にするのか、ⅣからⅢにするにはどうしたらいいのかを考えるのか。
- 計画を見直すか、見直さなくてもいいか。今までの計画を変えたら、どのようにしたらいいのか、意見を伺いたい。今までは重点項目に特にマークを付けてこなかったが、次の 4 年間でこの計画に取り組む最後なので、いい成果を増やして第 6 次総合計画につなげたいと考えている。
- 桜井課長のコメントはとてもいい。課題に対してどう取り組んだのかが書かれている。他からもそういった回答が欲しい。
- できるのであればそういった回答をしたはずと思う。他の課からそのようなコメントがなかったのは、保健福祉課のように特定できる要因が思いつかなかったからと考えられる。
- デマンドバスに対する評価は低いが、何もしていないわけではなく、やっていることはある。それは示していかないといけない。
- Ⅳがついたものについて、4 年でⅢにするにはどうしたらいいのかを考えてほしい。
- ⅣをⅢにはできない。Ⅲは、しようとしてもできるものではなく、分析結果の指標である。しかし、満足度を向上させることは目標にできる。その意味でⅠかⅡになる。
- Ⅳを脱すればいい。何をやっているかが見えないと評価も低くなる。こういったことをしたけれど、実を結ばなかった、ということをして 1 年やって報告書を出したらいいのではないか。そうすれば、Ⅳを脱しなくても、納得するのではないか。今は、どのような取り組みをした

のかが見えない。

○アンケートの自由記述は結果にどう反映するのか。

→担当者からの回答も含めて公表する。

○その回答に至ったプロセスが欲しい。

→今回、初めてフィードバックする。どう書いていいかわからない部分もあるが、かける形で書いてもらっている。

○見た感じ、かみ合っていないように見える。

○課題を考えるときにその課題だけを考えればいいのか。現実的には厳しいのかもしれないが、課が独立してやっていると解決にはつながらない。

○アンケートで終わってはいけない。最終的にはまちづくりにつながるので、前を見て考えていかないと進まない。

○自由記述には答えてほしい。

→今回は回答することとしている。各課長からも了解を得ており、12月までに集約する予定である。

○回答して、どのような方法で広報するのか。

→ホームページを考えている。

○どのくらいの人がホームページを見るのか。ホームページは情報を探しにくく、見つけにくい。ラジオでの広報をしてはどうか。

→ラジオもどのくらいの人が聞いているか、わからない。様々な方法で広報する。

○自由記述はアンケート内容を補完するものとなる。漏れがなくやってもらえればいい。

→子どもの居場所のことなど、自由記述に書いてあったから気づいたこともあり、気づかせの場となった。今すぐは答えられないことでも、気づかせてもらったということだけでも、大きな成果である。今後のアンケートを実施する際に反映できる。

●どんなことをしているかが見えないかもしれないが、役場内では毎年総合計画のローリングを行っている。どのような予算で、どんな取り組みをしたか、点数をつけている。公表してもいいものである。何もしていないのではなく、情報がいきわたっていない、というところである。

○ローリング結果を公表するのがいいと思う。

●予算書は二セコ町が初めて始めた取り組みである。その年にやることを公表しているという点で評価はされている。一方でなんの意味があるのか、と言われることもある。説明責任としてやっている。ただ、情報を出してどこまで効果があるのか、どこまでの人に伝えるべきなのか。

○全戸配布でなくてもいい。ホームページに載せるというのもいい。

→アクセスしたときに情報がある状態にしたい。

○「もっと知りたい今年のごと」に加えて「知ってよかった去年のごと」というものを出したらいいのではないかと。何をしたのか、成果が見える。

→予算書は予算書として独立して存在するほうがいい。何をしたか、担当課の評価が見えるようになるといい。

- 議会に提出している重点施策は分かりやすくまとまっている。見るかどうかではなく、アクセスしたときに情報があることが大事である。
- ニセコ町まちづくり基本条例の形骸化、農業、開発などニセコらしさがなくなっている。ニセコらしさに関心を持って移住してきている人はたくさんいる。どういったことに取り組んだのか、わかるようにしてほしい。
- どんなことをしたか、冊子を作らなくても、議会に提出している資料はあり、アクセスできる。それらを全部配るのは違うので、情報があることを教えるようにしたい。
- 知らない間に載せて、興味のある人はどうぞ、とするのではなく発信の仕方を工夫してほしい。一回情報を出したら、それでいいと思っているのではないか。
- 生ごみの袋が破れやすいことについて自由記述に書いてあるが、前にも説明していることである。
- 課題はたくさん出てくる。ただ、傾向は見えてきているので、それを大事にしながらうまくフィードバックしたい。
- 本当に重要なものを絞り込むようにしたい。数字は統計的なものであるもので、統計的に表れない質的なところも深めていかなければならない。それを見直しにどう反映させるか、そこに反映できなくても、第6次総合計画につながるような提案にしたい。
- ニセコ町は弱者や人権をあまり考えていない。学校でもいじめや不登校など問題はたくさんある。一人ひとりにきちんと手当ですることがまちづくりにつながるのではないか。予算書内にSDGsの標記があるが、ゴール番号10の人や国の不平等をなくそう、というマークがついているところはない。その視点が抜けているのはおかしいのではないか。平均でものを考えずにその人の立場に立って基準を考えてほしい。

〈今後のスケジュールについて〉

①今後の工程の説明・・・資料「工程表」

●今回の検討委員会ででた意見を総合計画へ取り込み、素案を作って提示し、それについて次回話し合うこととしたい。改正のなかで議決が必要な部分もある。その場合3月議会なので、その前に最低2週間のパブコメといった形になる。

○事務局は、次回の検討委員会までに集約して、議論できる議題を提示してもらう。

②次回検討委員会の日程について

●1月下旬を予定。改めて後日連絡調整する。

終了（20：00）